

愛知県が生んだ歴史上の大人物

岩瀬忠震と徳川慶勝

令和つれづれ草

外交評論家 金子熊夫

明治初年の内閣制度創設から135年の間に、初代の伊藤博文から99代の菅義偉氏までで総数63人の内閣総理大臣が就任したわけだが、その出身地を真別にみると、山口県(旧長州藩)が8人と一番多く、愛知県(旧尾張、三河藩)はわずかに2人、大正時代の加藤高明と平成時代の海部俊樹だけだ。

なぜ愛知県からは回天の大政治家や大人物があまり出ないのか。それには、愛知県は総じて気候温暖、土壌肥沃(ひよこ)で農作物の栽培に適しているから、食いつぶされる

心配がなく、ガツガツしていない。つまりハングリ精神に欠けている。戦国時代末期から江戸時代初期のわずか40年くらいに信長、秀吉、家康と超大物の英雄豪傑が輩出したので、土地が枯れてしまい、以後大人物が出ていなくなった等々。

これは私の全く勝手な推論(仮説)で、ぜひその道の専門家に学問的に検証していただけたらとお願い。

冗談はさておき、そうした愛知県にも、幕末、維新の動乱期には第一級の人物が少なくとも2人いた。現在世間ではあまり知られていないと思われ、この機会にごく簡単に紹介してみよう。

岩瀬忠震 日米修好通商条約など調印

外国貿易のメリットを説く



岩瀬忠震(新城市のHPから)

一人は幕臣で、初代外国奉行として、タウンゼント・ハリス初代米國総領事を相手に交渉し、日米修好通商条約(1858年)を調印した岩瀬忠震(ただなり)だ。

三河出身といっても実際に生まれ育ったのは江戸だが、大変な秀才で、現代風にいえば、東大法学部のエリート教授から外務省のトップ官僚に抜てきされたようなもの。尊王攘夷か開国かで国論が真っ二つに割れる中、

理路整然と開国論を唱え、外国貿易のメリットを説き、横浜開港を決議したことで知られる。もしハリスとの交渉が

不首尾に終わり、あのまま鎖国を続けていたら、欧米列強の餌食となり、阿片戦争後の中国(清王朝)の二の舞を演じていたに違いない。当然明治維新のような大改革は起こらず、みじめな植民地になっていただろう。彼こそ当代第一級の人物だと、島崎藤村も小説「夜明け前」で太鼓判を押し

たに違いない。当然明治維新のような大改革は起こらず、みじめな植民地になっていただろう。彼こそ当代第一級の人物だと、島崎藤村も小説「夜明け前」で太鼓判を押し



岩瀬忠震像前の筆者(設楽原歴史資料館前で(提供))

徳川慶勝 江戸城の無血開城に貢献

尊王主義の第14代尾張藩主

関係資料も展示されており、正面玄関前には、立派な岩瀬公の銅像が数年前に建立されたが、これは故瀧川院長が私財を投じて作ったものだ。歴史に関心のある読者諸賢は、機会があればぜひ立ち寄りていただきたい(飯田線三河東郷駅から徒歩20分)。私も、一興君の遺志を継いで、及ばずながら、岩瀬公の顕彰活動のお手伝いをしたいと思っ

ら徒歩20分)。私も、一興君の遺志を継いで、及ばずながら、岩瀬公の顕彰活動のお手伝いをしたいと思っ

もう一人は、これまた一般にはほとんど知られていないと思われる人物、尾張藩第14代藩主、徳川慶勝(よしかつ)である。

彼は御三家の筆頭で、將軍家に最も近い家柄であったにもかかわらず、尊王主義者で、幕末動乱期に終始朝廷側に立ち、江戸城無血開城にも側面から貢献するなど、新しい日本の誕生に舞台裏で重要な役割を果たしたとされる。

ことほど左様に尾張藩の影響力は絶大であった。そして、この働きがあったからこそ、西郷隆盛率いる官軍は東に向かつて東海道、中山道を通り、江州の無血開城を果たすことができたというわけだ。

現在、名古屋城の二の丸広場の一角には、次のような文字が彫られた石碑がひっそり建っている。

「王命に依って催さるる事」

この言葉は、尾張徳川家の祖・徳川義直(よし

ことほど左様に尾張藩の影響力は絶大であった。そして、この働きがあったからこそ、西郷隆盛率いる官軍は東に向かつて東海道、中山道を通り、江州の無血開城を果たすことができたというわけだ。

現在、名古屋城の二の丸広場の一角には、次のような文字が彫られた石碑がひっそり建っている。

「王命に依って催さるる事」

この言葉は、尾張徳川家の祖・徳川義直(よし

ことほど左様に尾張藩の影響力は絶大であった。そして、この働きがあったからこそ、西郷隆盛率いる官軍は東に向かつて東海道、中山道を通り、江州の無血開城を果たすことができたというわけだ。

この辺は、無知蒙昧(もうまい)、頑迷(こんまい)な藩主や公家たちの抵抗を押し切り、孤軍奮闘、強力に開国外交をけん引した岩瀬忠震の思想と行動に

ことほど左様に尾張藩の影響力は絶大であった。そして、この働きがあったからこそ、西郷隆盛率いる官軍は東に向かつて東海道、中山道を通り、江州の無血開城を果たすことができたというわけだ。



徳川慶勝 (Wiki pediaより)

前回、8月16日付2面に「いつまでも『あの戦争』で良いのか」という一文を突然寄稿したが、今回から「令和つれづれ草」というタイトルで毎月1回、定期的に寄稿させていただきますことになりました。同郷のよしみで、何分よろしくお願ひ申し上げます。